神奈川県立あおば支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和４年度　神奈川県立あおば支援学校第２回運営協議会		
開催日時	令和４年８月 26 日（金）午後 14 時 00 分～午後 16 時 30 分		
開催場所	桐蔭学園　講堂		
出席者	委員：11 名 事務局：10 名		
次回開催予定日	令和４年 10 月 25 日（火）午後 13 時 00 分～午後 15 時 00 分		
問い合わせ先	神奈川県立あおば支援学校　　副校長　藤岡　歩 電話番号　　０４５－９７８－１１６１ ファックス番号　０４５－９７８－１１６０		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	１　開　　会 ２　あいさつ 　桐蔭学園　溝上慎一　理事長 　あおば支援学校長 ３　議　　事 ・部会に分かれてテーマに沿って協議 　切れ目ない支援部会「進路」 ＜切れ目ない支援部会＞ テーマ「卒業後の進路、生活について」 ・とても大きなテーマだったことで、各グループから出された課題も多岐にわたっていた。出された課題で共通していたのは「本人の思いを生かすための教育・支援の在り方」「進路先の不足」「障害理解・相互理解」だった。 ・本人の思いを生かすための教育・支援の在り方」についてできることとして、保護者から保護者の思いに偏らず、本人が選択できるためにも、見学や実習の機会の充実が望まれた。また、他のグループでは、小学部・中学部・高等部の段階的に、学校でできること、家庭でできることに分けて、たくさんの具体的な取り組みが上げられた。 ・メンバーに保護者が入っているグループからは、農福連携では所属する事業所から畑へ出向き作業をすることがあるが、農業だけで		

	なく、学校の製パン室など授業で使用していない日に出向いて作業するなど工夫ができると、食品加工や事務作業等、作業種が増えて良いというアイディアもあった。他グループからは、クラウドファンディングで資金を集め、事業所等の設立を願う意見。さらに、区役所からの道に事業所等を誘致し、「あおば福祉ロード」にしたいという将来への夢も語られた。 ・「障害理解・相互理解」については、学校での活動の中でアピールしたいおもしろエピソードを広げる、パフォーマンスを届ける、作品等の販売、ＳＮＳの活用等がすぐできることとして出された。また、地域と交流する機会を来年に向けて増やすための交流のアイディア等が出された。知ってもらうことの重要性が語られた。 ・最後に、今回“熟議”できたことがとても良かった。学校でも、もっと学校のこと、児童・生徒のことについて“熟議”できる場が作れると良い。そのために、新しいことを始めることも大事だが、これまでの取り組みを整理したり、廃したりすることも大事だと思うとの意見があった。 〈地域連携部会〉 「福祉避難所等防災」 テーマ「子供の安全・安心な防災体制を地域とともにつくるには」 ・地域の方々に、学校や児童・生徒のことを知ってもらう。まだまだ、地域の方に学校や児童・生徒の存在を知ってもらえていないのではないか。本校のグランドデザインの中核でもある「地域貢献」にもとづき、日ごろの教育活動の中で、地域に出ていく、地域の方とかかわることを通して、知ってもらえるよう取り組んでいく必要がある。 ・地域の防災体制を知るとともに、地域の方々との連携を進める。地域の災害の歴史を知るとともに、地域の防災体制がどのようになっているのかを知る必要がある。災害（鶴見川の水害）の歴史を地域の方から話をしてもらうこともできる。また、地域の防災会議に参加し、話し合う場が設けられ、地域の方と連携した合同避難訓練ができるようになるとよいのではないか。広域避難場所でもあるみたけ台中学校とも交流等を通して協力できる体制づくりができるとよい。また、電源の確保のために地域の中で非常用電源を供出してもらえるようなところを探すことも必要である。 ・本校が福祉避難所として活用していただけるような手続きを青葉区役所と話し合いを進めている。

	・学校の防災体制に関することを再点検する必要性がある。教職員が、非常用グッズの置き場や、消火栓の位置、非常用電源の位置、スクールバスを活用した非常用電源の確保等について、知らないこともある。あらためて校内の防災体制について再確認することが必要と思われる。また、A 部門の児童・生徒の避難については、B 部門の教職員も含め対応方法を知っておく必要がある。 ・学校周辺の地域との連携だけでなく、居住地域との連携も必要である。居住地域での防災を考え、居住地域での防災活動に積極的に参加し、地域の方々に知っていただくことも大切。小・中学部では居住地交流を実施しており、高等部３年では、居住地域のことを知る学習を行っている。さまざまな地域での学習を通して地域との連携を深めておくことも大切である。 ・障害のある方をはじめ、様々な人がお互いを認め合いながら、避難生活が送れるようになることが理想である。 〈地域学校協働部会〉 「地域学校協働本部について」 ・現状把握では、そもそも地域学校協働本部とはどんなことをしてくれるのか、という疑問を持つ方が多く、そこの確認をしたグループが多数あった。実際に連携をしている学部の話を共有したり、地域コーディネーターさんが実際どんなことをしてくれているのかを確認したりした。（高等部はよく連携している、小学部も少し。中学部はほとんど連携がない）地域学校協働本部やコーディネーターさんのことが学校に浸透していない、という現状がわかった。 ・コロナ禍の影響や、新しい学校ということもあり、地域のことを知っていかなければならないが、その時間の確保が難しかったり、地域の活動が減少していたり、地域に出ていくこと自体が難しい現状もある。 ・地域の方の思いと、学校として行いたいことの調整が難しい。そこをコーディネーターさんが担ってくれている。 ・現状把握でわかった地域学校協働本部の地域コーディネーターさんと仲良くなる。コーディネーターさんもコミュニティルームにいっぱい来てほしいという思いがある。まずは、コミュニティルームに金曜日に行ってお茶をしよう。また、すでに連携して良かった例やあれば失敗した例などを職員会議等で紹介してもらい学校全体に地域コーディネーターさんのことが伝えられると良い。 ・地域の資源（人や場所など）を知る、利用する。

	４　その他 ５　閉　　会